



2024年5月9日

日本鉄道労働組合連合会

能登半島地震「連合救援ボランティア」に参加

連合は、令和6年能登半島地震について「連合救援ボランティア」を3月25日から開始しており、第4クールとなる4月14日(日)～20日(土)の活動に、JR連合から宮野勇馬企画局長、JR東海ユニオンの宮崎勝典総務部長（JR連合会計監査員）が参加した。活動地域が七尾市から震源地に近い珠洲市に移され、支援要望の聞き取り調査を行った。

第4クールの活動には、連合に加盟する各産別から20名が派遣され、初日はベースキャンプとなる七尾市の「ホテル海望」へと、金沢駅からバスで移動した。七尾市も大きく被害を受けた地域であり、水道がようやく使えるようになった一方、現在でもお湯が出ないなど、制限のある中での生活となった。初日の結団式には、連合本部から芳野友子会長が駆け付け、1億8,000万円強が集まったカンパへの感謝を述べるとともに「活動にあたっては健康に留意し、安全最優先でお願いしたい」と参加者を激励した。



連合本部から芳野会長の激励を受けた

15日(月)～19日(金)は、より震源に近い珠洲市までバスで片道2時間かけて移動した後、ボランティアセンターから指定された地域を一軒一軒尋ね、ボランティアの要望についての聞き取り調査を行った。海沿いの地域では津波によって家が大きく壊され、住んでいる方がいらっしゃらないことも多かった。一方、山間地域では、比較的被害が小さく、半壊と認定されたご自宅にお住まいの方もおり、未だ手つかずとなっている家財道具の取り出しなどの要望を聞き取ることができた。震災から3か月経った今も自動車で通れない道が多くあり、上下水道の復旧もなされていないなど、地震の爪痕が色濃く残っていた。

第4クールの期間、全体で150件ほどのニーズを聞き取ることができ、今後のボランティア活動に活かされることとなる。また、期間中にNHKや現地新聞の取材を受け、連合の取り組みが各メディアで紹介された。

連合では、息の長いボランティア活動を行うこととしており、今後もJR連合・加盟各単組からの積極的な参加を行っていく。

＜今後の連合救援ボランティア参加予定＞

- 第7クール 5月5日～5月11日（JR連合1、JR西労組3）
- 第10クール 5月26日～6月1日（JR連合1、JR四国労組1）
- 第13クール 6月16日～6月22日（JR西労組1、JR九州労組1）



地震の爪痕が未だ残る道路